

杏林医学会 第二回例会 開催報告

保健学部分子生物学教室

蒲生 忍

平成 25 年 3 月 28 日、杏林医学会第二回例会として医学部大学院講堂において、米国ワシントン大学（シアトル）医学部生命倫理学教室 Thomas R. McCormick 博士をお招きし、“Spiritual Care and Role of Chaplain in the US Medicine” の講演を行った。

Thomas R. McCormick 博士は蒲生が代表を務める日本学術振興会学術研究費助成金基盤研究 C「米国ワシントン州の終末期医療と尊厳死について：今後の課題と我々への示唆を探る」において米国での調査活動への助言と援助を依頼している研究協力者である。今回、当該研究の打合せのため、また併せて保健学部心理学教室准教授下島裕美が代表を務める日本学術振興会学術研究費助成金基盤研究「ケア提供者のための死生学教育ツールの開発」における情報提供のために来日を依頼した。

ワシントン大学医学部は米国北西部五州で唯一の医学教育機関（ワシントン州・ワイオミング州・アラスカ州・モンタナ州・アイダホ州の頭文字から WWAMI Program と呼ばれる）であり、ワシントン大学と Harborview Hospital や Seattle Children’s Hospital 等の周辺の医療施設は、五州の高度医療を一手に担っている。特にワシントン大学の医療施設は Primary Care では全米第一位にランクされている。ワシントン州は古くは、最初に腎臓透析が治療として提供された州であり、最近では隣接するオレゴン州と共に尊厳死を法制化した州としても知られ、それに伴い終末期の緩和医療が最も活発な州でもある。

McCormick 博士はワシントン大学医学部で、終末期医療の倫理を含む医療倫理について長年にわたり教鞭をとられ、医学生のカウンセラー、また“Chaplain”として多くの臨床経験を持つ。今回の招聘を利用し、近年、多くの学会等で取り上げられる“Spiritual care”について、多民族・多宗教国家である米国での現状とその担い手である“Chaplain”を紹介していただく機会を杏林医学会と共に設けることとした。

“Spiritual care”とは近代的ホスピスの創始者である英国シシリー・ソンドースが緩和医療の概念の中で、全人的苦痛の一つとして挙げているスピリチュアル・ペインに呼応する言葉である。日本においては疼痛緩和が先行しつつも、近年はスピリチュアル・ケアの重要性に対する認識も高まりつつある。しかし、スピリチュアルという用語は元々が宗教的色彩を含む言葉であり、宗教的色彩を強く意識させる。そのため日本語の定訳はなく、WHO 等の定義にもかかわらず、その概念の説明と理解も一定ではない。日本にはチャプレンという言葉がキリスト教系の学校の聖職者として導入されたため、医療職としての“Chaplain”に関しては誤解が多く、議論が噛み合わないこともある。

ワシントン大学の医療施設での“Spiritual care”は、終末期医療に限らず救急医療や小児科を含め広い分野で実施され、その対象は患者本人と家族に限らず、医療スタッフにも及ぶ。“Chaplain”がその主な担い手として活躍しているが、聖職者ではない。米国における“Chaplain”は神学や心理学等の学部教育を受けた後に、“Spiritual care”に関する大学院レベルの専門教育と二年間の医療施設での研修を経た専門職である。豊富な宗教的知識を有しており（聖職者としての資格を持つ者も多いが）、特定の宗教色を自ら明らかにしはしない。“Chaplain”は、患者や家族が重篤な病気に曝された時に生じる様々な感情的軋轢、葛藤やストレス、悲嘆や怒り、人生への問いかけ等の“Spiritual”な問題の解決に向けてサポートする。ワシントン州の位置する米国北西部は極めて宗教色の弱い地域と言われるが、概ね半数の住民が何らかの信仰を有している。従って、患者や家族に宗教的対応が有効である場合も多いが、宗教的対応以外が必要となることも多い。患者や家族との緊密なコミュニケーションに基づき心の深層に潜む要求や問題を引き出し、解決へのサポートを行うことを目指す。ロゴセラピーやナラティブセラピーと、言葉は違えども目指す所はほぼ

同じである。

McCormick 博士の講演は多様な価値観を持つ住民で構成される米国での“Spiritual care”と“Chaplain”という役割について、幾つかの異なる立場から詳細な解説を加えるものであった。私にとり、積年の疑問や誤解が氷解すると共に、“Spiritual care”の担い手等の我々が今後解決しなければならない課題を明示するもので

もあった。ご多忙の中、参加いただいた皆様にも貴重な示唆を与えるものであったと考える。

本講演は日本国際協力センター・長縄美樹氏による逐次通訳を配した。丁寧かつ流暢な通訳によって理解が助けられた。長縄氏に感謝する。本例会の開催にご助力いただいた関係各位に感謝する。

以上